



# 建設業界が抱える構造不況がますます深刻化 新たなスタンダード 「システム建築」が 果たす使命

Business  
ASPECT

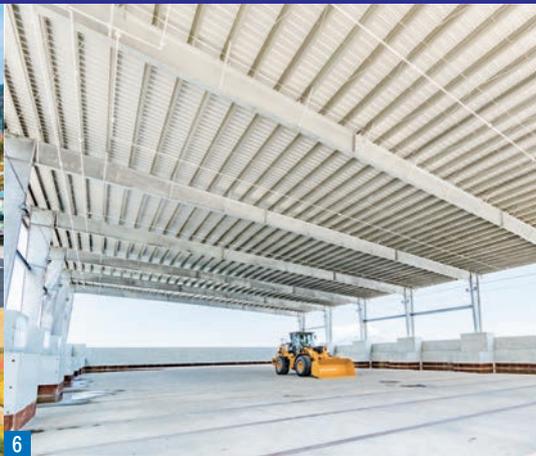
横河システム建築



経営環境の変化によって多くの課題に直面している業界がある。そう、建設業界である。建設資材の不足や価格高騰、人手不足などの問題が深刻化している。こうした中、その課題を解決するものとして期待されているのがシステム建築だ。中でも「yess（イエス）建築」は、高品質な建物が短工期、低コストで建てられるだけでなく、地域の建設会社とタッグを組み、新たな市場を生み出し、地域の活性化に貢献しようとしている。 制作・東洋経済企画広告制作チーム



7



6



5



9



8

- 1 千葉県茂原市に完成する新工場
- 2 鉄骨生産工場
- 3 出荷ヤード
- 4 事務所棟
- 5 6 セツ島バイオマス発電所ヘレット倉庫他 (鹿児島県)
- 7 パナソニックライフソリューションズ朝日(株) 3号棟(群馬県)
- 8 湯河原町真鶴町衛生組合一般廃棄物最終処分場(神奈川県)
- 9 エア・ウォーター防災(株)美浜事業所

## 「茂原工場」が始動 生産能力が2倍に

「ようやく新工場が完成します。全国のビルダーに対して、『Yes建築』をどんどんお客様に提案し受注してください」と言うことができるようになります」と話すのは、横河システム建築 常務取締役の高柳隆氏だ。10年以上にわたり同社の営業部門の責任者を務め、着工面積、シエアの拡大を実現してきた立役者である。ビルダーとは同社と提携する、地域の建設会社などの販売施工代理店を指す。

新工場が建設中なのは千葉県茂原市の「茂原北IC」から約2.5キロメートルという好立地だ。2019年9月にはここで、敷地面積11万平方メートル、延床面積3万平方メートルという巨大な工場が稼働する予定だ。

「茂原工場」は、新たな鉄骨製造ライン工場だ。同社はすでに千葉県袖ヶ浦市にシステム建築専用の「千葉工場」を有しているが、「茂原工場」が稼働することで、生産能力は現在の約2倍に増強できるという。だが、高柳氏には笑顔は見られない。

「システム建築のリーディングカンパニーとして、当社が率先してキャパシティを広げ、ビルダーをはじめとする建設業界の皆さんが活動できるように支援しなければなりません。そ

れが当社の社会貢献であり、使命感だと感じています」

大きなテーマに挑むように聞こえるが、同社にとってそれは最近の話ではない。横河ブリッジホールディングスの創業者・横河民輔氏は「社会公共への奉仕と健全経営」を基本理念とし、「誠実であれ、よいものをつくれ」という思想のもと、「鉄骨建築の先駆者」として、わが国初の鉄骨建築「旧三井本館」を設計したほか、初代の帝国劇場や日本橋三越本店なども手がけてきた。110年以上にわたって培ってきた歴史と伝統、そしてDNAが今も同社に受け継がれている。

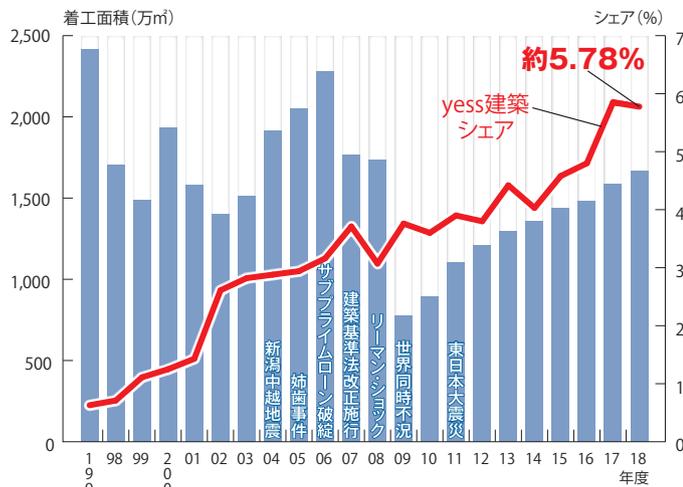
「だからこそ、当社が茂原工場を早急に造らなければならなかったのです」と高柳氏が力を込める理由はそこにある。大げさでなく、同社の新工場稼働が全国のビルダーの経営に大きな影響を与えるからだ。

## 高品質・短工期・低コスト システム建築「Yes建築」

「お客様(施主)からシステム建築『Yes建築』の引き合いが急速に増えているにもかかわらず、部材を供給することができず、ビルダーの皆さんには受注を止めてもらっていました」と高柳氏は振り返る。

なぜ、「Yes建築」が人気なのか。システム建築は、鉄骨、屋根、外壁、建

## 全国の工場・倉庫・作業所（鉄骨造）の着工面積の推移とyess建築のシェア



「yess建築」の受注実績だけでなく、全国の着工面積に占める「yess建築」のシェアも実勢を伸ばしている。

具などの部材を標準化することにより高品質な建物が短工期、低コストで建築できるのが大きな特長だ。といっても、設計の自由度は高い。中でも「yess建築」なら1ミルピッチで、建物の幅、長さ、高さなどを設定でき、要望に応じて天井クレーンの設置なども可能だ。最大60メートルの無柱スパンに対応できるのも「yess建築」ならではの。

受注制限を行ったことは同社にとって商機を逸したことになるが「それもあることながら、ビルダーの皆さんのビジネスチャンスを逃すことになったのが本場に申し訳ない」と高柳氏は

残念そうに語る。

鉄骨の製造が遅れただけでそれほど深刻な影響が出るのかと疑問に思う人もいるだろう、それに対して高柳氏は「鉄骨だけでなく、ハイテンションボルトがないだけで現場が進まなくなり、日本の建設現場はきわめて深刻な状況になっています」と話す。ハイテンションボルト（高力ボルト）は、強い締め付け力が求められる鉄骨造の建物や橋梁などの建設には欠かせない。だが、都心の再開発や物流施設生産工場の新設などにより品薄となり、建設現場にボルトが足りないという現象が起きているという。

「工場や倉庫の建設需要が高いにもかかわらず、部材がないため鉄骨造では建築できなかったケースもあったと聞きました（高柳氏）」

その点でも頼りにするのが「yess建築」だ。「yess建築」は、応力勾配に沿った設計により、軽量化が可能で、部材点数も少なく、ハイテンションボルトも使用量は在来工法に比べて少なく済むので「す」というから驚く。

ちなみに、9月に稼働

する「茂原工場」(延床面積3万平方メートル)ほどの大規模な工場を在来工法で建設すれば1年半〜2年ほどかかることも珍しくないが、建屋を自社の「yess建築」で建設したところ、基礎工事完了後、わずか6カ月(計9カ月)という短期間で完成したという。

### 地域のビルダーの提案営業を支援する独自のツール

高品質な建物が短工期と低コストで実現する「yess建築」のメリットが改めて注目されているのだろう。施工企業の中には横河システム建築のホームページなどを見て、直接連絡してくるところもあるという。それに対して高柳氏は「在来工法に比べれば新しい技術だけに、とくに地方ではまだ「yess建築」をご存じでないお客様もいらっしゃると思います。知名度アップが急務です」と話す。

そのために、地方局でのテレビCMも準備中だという。撮影にあたっては女優・俳優をオーディションで起用し、新進の女

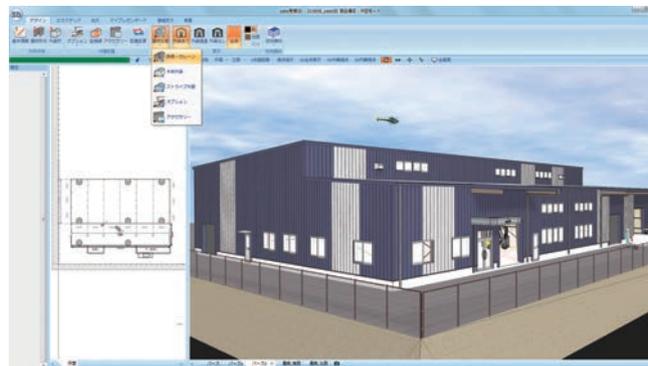
性シンガーソングライターにオリジナルCMソングの作詞・作曲を依頼したほどだ。

「地方では、施主となる企業も中堅中小企業が多く、また経営者の高齢化も進んでいます。デジタル・モバイルの時代ではありませんが、これらの企業の経営者などに訴求できるのは、やはりテレビだと考えました。また、これらの企業のニーズを熟知しているのは、やはり地元根付いた販売会社や建設会社です。地元ビルダーの営業活動の支援となる仕組みをつくりたいと考えました」と高柳氏はその狙いを話す。

現在、ビルダーの数は北海道から沖縄まで全国約1150社。ただ、ビルダー自身も中堅中小企業がほとんど



横河システム建築  
常務取締役  
高柳 隆



「yess見積3D」では、建物の寸法や建具配置、外壁の色指定などをゲーム感覚で可能に。また、サイト上では最新の技術を駆使した美しい動画や写真が豊富に掲載されている。



のサイトでは、事例の多くが、ドローン（小型無人機）を利用した空撮や360度パノラマVR（仮想現実）などで撮影されている。これなら建築に詳しくない企業の経営者にも理解しやすいだろう。

さらに注目すべきツールもある。同社の「yess見積3D」システムだ。マウスのドラッグ&ドロップや表示されたメニューから選ぶだけで用途に合った建物を3Dパースで提案することが可能だ。営業担当者でもこれらの業務が可能で、ノートパソコンを持参すれば、お客様の要望に応じて、目の前で寸法や建具配置、外壁色の変更なども簡単にできるといふ。もちろん、シミュレーションだけでなく、この「yess見積3D」から、見積書やフレージング（骨組）プラン図を作成することも可能だ。

で人的リソースには限りがある。

「提案営業が苦手だというビルダーも少なくありません。だったら、そこも当社がお手伝いすればいいと考えました」（高柳氏）

例えばその一つが、ビルダーが共同運営するインターネットサイト「yessビルダーズネット」だ。システム建築で工場や倉庫を建てたいと考える企業に対して、施工事例などを含むさまざまな情報提供を行っているほか、地域や建物の大きさなど、簡単な条件を入力するだけで参考価格が算出できるシステムも用意されている。さらにサイトを通じて相談ができ、地元ビルダーも紹介してくれるという。

「大切なのは、施主であるお客様の目線で情報を提供すること」と高柳氏は念を押す。例えば、「yess建築」

## 建設業界が抱える 構造不況の解決に 新たな「スタンダード」で挑む

「yessビルダーズネット」や「yess見積3D」は、地方のビルダーが営業活動を行う際に大いに助けになるに違いない。



(株)ワールド通商 酒々井町倉庫(千葉県)



ソフトバンク大道(大分県)



(株)二川工業製作所神戸工場(工場棟)(兵庫県)

「ビルダーへの加盟数も年々増えていきます。ビルダーの中には在来工法から『yess建築』へ、事業内容を大きくシフトしたところも少なくありません」と高柳氏が話すのにも納得がいく。

むろん、これらの提供にあたっては、横河システム建築にとつても投資などのリスクがある。同社がこれまでの支援を行うのにはどのような理由があるのか。

「地方が元気にならなければ日本は元気になりません。私たちは、ビルダーとして参加される販売施工代理店を支援することで、地域活性化のお手伝いをしたいと考えています」

工場や倉庫などの建築需要は伸びているにもかかわらず、地方の建設会社はその機会を獲得できていないのではないだろうか。逆に言えば、「yess建築」という「新たなスタンダード」に取り組むことで、地域の中堅中小の建設会社の競争力が向上し、生き残りにもつながるだろう。

「前述したように建設業界の課題を解決し、日本を元気にするのが私たちの社会的な使命だと考えています。そのために引き続き、挑戦を続けていきます」と高柳氏は語る。

満を持しての「茂原工場」の稼働で、その思いの実現がさらに近づきそうだ。引き続き、横河システム建築と地域のビルダーの取り組みに期待したい。